

(令和3年12月試験研究業務月報)

試験研究課題：ブランド蟹の安定供給に向けた資源管理手法の確立

研究

ズワイガニの飼育実験

府内の産地市場に水揚げされる甲羅が硬い雄のズワイガニは、ハサミが大きく市場価格の高い「タテガニ」とハサミが小さく価格の安い「モモガニ」に銘柄分けされています※。モモガニは脱皮盛期の9-10月に脱皮をしなかった未成熟な個体で、いずれ生涯最後の脱皮をして成熟したタテガニになりますが、その過程の詳しいことは分かっていません。そこで、当所では水産研究機構・教育機構と共同で昨年11月末からモモガニの水槽飼育を行い、脱皮する時期や体色、形状の変化などを継続的に調べています。

これまでの測定結果により、脱皮が近づくと、体色が茶褐色から段々と青緑色に変化することが分かってきました。今後、第2小顎（口の周辺にある器官）による脱皮ステージの観察とともに、モモガニからタテガニへの脱皮過程などの解明に取り組みます。

※前者は「間人ガニ」「舞鶴かに」と称されるブランドガニとなっています。



色彩計による体色測定



脱皮休止中（左）と脱皮直前（右）のモモガニ